



毎月十五日発行 所 社 会 大 像 宗 像 定価 一年送料共 1000円

沖津宮現地大祭斎行

神秘的島沖ノ島に捧げる祈り



沖津宮現地大祭は五月二十七日、玄界灘沖か五十軒の遠沖にボツンと浮かぶ、絶海の孤島沖ノ島に於て、厳肅且つ盛大に斎行された。

沖津宮現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島近海で展開された、日本海軍に於て、東郷平八郎提督の率いる我が連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、世界戦史に残る歴史的な大勝利を記念して、毎年行っているもので、全国の信者、崇敬者が参拝出来るのも、この日だけに限られている。

前日の二十六日、午後六時、大島中津宮本殿にて、宵宮祭並びに渡島祈願祭を斎行、明日の好天と渡島の安全を祈願し、数多くの希望者の中より特に敬選された。

沖津宮現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島近海で展開された、日本海軍に於て、東郷平八郎提督の率いる我が連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、世界戦史に残る歴史的な大勝利を記念して、毎年行っているもので、全国の信者、崇敬者が参拝出来るのも、この日だけに限られている。

沖津宮現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島近海で展開された、日本海軍に於て、東郷平八郎提督の率いる我が連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、世界戦史に残る歴史的な大勝利を記念して、毎年行っているもので、全国の信者、崇敬者が参拝出来るのも、この日だけに限られている。

沖津宮現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島近海で展開された、日本海軍に於て、東郷平八郎提督の率いる我が連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、世界戦史に残る歴史的な大勝利を記念して、毎年行っているもので、全国の信者、崇敬者が参拝出来るのも、この日だけに限られている。

沖津宮現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島近海で展開された、日本海軍に於て、東郷平八郎提督の率いる我が連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、世界戦史に残る歴史的な大勝利を記念して、毎年行っているもので、全国の信者、崇敬者が参拝出来るのも、この日だけに限られている。

沖津宮現地大祭は、明治三十八年五月二十七日、沖ノ島近海で展開された、日本海軍に於て、東郷平八郎提督の率いる我が連合艦隊が、ロシア帝国のバルチック艦隊を撃破した、世界戦史に残る歴史的な大勝利を記念して、毎年行っているもので、全国の信者、崇敬者が参拝出来るのも、この日だけに限られている。

式年遷宮制が意味するもの

昨年五月の山口祭斎行に開始された伊勢の神宮の第六十一回式年遷宮の事業はその後順調に進捗し、この四月からはいよいよ恒例の「お木曳」行事に入った。

お木曳は、もともと数百年前から神領民の特権的行事としておこなわれてきたもの。明治以後も旧神領(いまの伊勢市を中心とする地区)の人々が榮譽の誇りをもって奉仕してきた。二十年に一度のこの伝統行事の感激を全国の神宮崇敬者にも実感してもらおうと、「一日神領民」の制度が生まれた。そして各地からの希望者約一万五千人が、昭和四十二年二年の二回のお木曳に一日神領民として参加した。

今年も今年と明年の二回、一日神領民の奉曳参加が認められるが、今年(宮)は十一日間(内宮)四日間、陸曳き(外宮)は十一日間わたって賑やかな祭礼行事が神都伊勢市に繰りひろげられることになる。

お木曳行事を含めて昭和六十八年秋の遷宮の御儀までの祭儀・行事のすべてが二十一年一度奉仕されるわけだが、この二十年一度の遷宮(式年遷宮)という神宮の式年遷宮制度の持つ意味は、もちろん大きい。

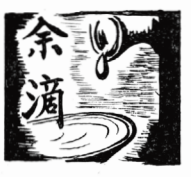
そのことは、神宮の御建物の建築法一つをみても明瞭である。実は、神宮の式年遷宮制が定まった天平時代にはすでに、例えば法隆寺を見てもわかる。

お木曳行事を含めて昭和六十八年秋の遷宮の御儀までの祭儀・行事のすべてが二十一年一度奉仕されるわけだが、この二十年一度の遷宮(式年遷宮)という神宮の式年遷宮制度の持つ意味は、もちろん大きい。

お木曳行事を含めて昭和六十八年秋の遷宮の御儀までの祭儀・行事のすべてが二十一年一度奉仕されるわけだが、この二十年一度の遷宮(式年遷宮)という神宮の式年遷宮制度の持つ意味は、もちろん大きい。

Advertisement for 'Sonega' magazine, including publisher information and subscription rates.

和となった。ただ天気は晴しめ、人々はただひたすら朝な夕なと、前日の時島の中腹に鎮座される沖津宮本殿を目指した。



第二九回 宗像大社歌会詠草 池田 小田 イセ 足よわき夫を支えて病院の階に上る昨日の如く

映画「植村直己物語」を見た。エペレストを初め、頂に五大陸最高峰の単独登山に成功した、北極圏一万二千里の単独大冒険の旅。その他数々の偉業を成し遂げた、一昨年二月、マッキンリー山冬季単独登山に成功したと、消息を絶つた一冒険家の劇的な生涯を映画化したものである。彼は、世界で最も勇気ある人物として、イギリス、アメリカで最も権威ある賞を受け、冒険家の地位は世界的に不動のものになった。物が言われぬ、飽食の時代と異なり、この今日、人間の限界に挑む超人的な努力の結果として、感動的かつ不屈の姿が感動的に画かれています。それが、それも増して、スクリンに写し出された大冒険の風景には圧倒された。撮影は、監督の「映画も画に挑んで」という信念の裏面に、命懸けで行われ、エペレスト五千米以上のベアレスキャンピングまで、撮影隊は高山病に悩まされ、二回、二十七日間、息絶えかけた。また、アラスカの水原では、現地のエスキモー人も恐れ、一歩も外に出ないという三日間に及ぶアザード(猛吹雪)の日は、絶好の撮影日和を運び、カメラを動かして続けたという。こうして決定的撮影の効果により、体中の汗が乾かすと思われ、その迫る臨場感がスクリーンから伝わってくる。秀れた作品は、また多くの秀れた裏方によって支えられている。そして意外にもこうした意味なき仕事を志す若者が増えているという。金銭では代えられぬ、生き甲斐、達成感が若者の情熱を養成するにあらう。表舞台には決して姿を現さない裏方の存在を忘れてはならない。

第九回宗像王位戦

王位に福山英明五段

福岡県南代表



西日本アマチュア将棋界 大社・西日本新聞社、主管市、玄海町、福岡町、津屋の王位座を競う「第九回 日本将棋連盟福岡支部、宗像王位戦」(主催 宗像) 後援 日本将棋連盟、宗像

本日は、日本将棋連盟本部棋士の桜井昇七段を審判長に迎えて、去る五月十一日(日)午前八時より、当大社斎館に於て対局の火蓋が切られ、終日熱戦が繰り広げられた。

今回の参加選手は、九州十人(福岡県は南北二地区四人、他県は各二人)と昨年の宗像王位・木村鉄雄五段(五十三才) 福岡県北九州市戸畑区 二の二十一人で戦われた。

参加選手は、前日十日の午後三時半迄に当大社へ集合、受付を済ませた後、同五時二十分より、祈願殿にて「第九回宗像王位戦奉告式」を挙行、選手代表が玉串を奉養して、全員前日の正々堂々の対局を神前に誓った。祭典終了後宿舎の魚屋旅館に移り前後祭が行われ、主催者挨拶、審判長挨拶、選手自己紹介など、和気藹々の中にも緊張した雰囲気が漂っていた。

十一日午前八時から、いよいよ対局を開始、今回かき、先手各県代表四人(組「くし引き」A・E)による予選リーグを行い、二勝した十一人と前回の王位を加えた十八人で決勝トーナメント(決勝戦のみ時間四十分)で戦われた。

予選リーグより熱戦が続き、息詰まるような対局が続いたが、午前中には決勝トーナメント出場の十選手が決まった。

王位決定戦は、福山英明五段(二十九才) 社会員 福岡県南代表、春日市小倉 黒木正剛五段(三十九才) 社会員 宮崎県 宮崎市上野町の優勝候補同志の対局戦となり、手に汗握る攻防戦の末、百八十一手で福山五段が、宗像王位の座を獲得した。

第九回「宗像王位戦」出場選手名並びに成績は、左記の通りである。

各県代表選手名

| | |
|------|--------------|
| 山口県 | 小島 英雄(47) 四段 |
| 山口県 | 梅野 孝秋(48) 四段 |
| 沖繩県 | 与那覇廣正(36) 二段 |
| 福岡県 | 榊原 敏夫(29) 五段 |
| 福岡県 | 赤木 文造(47) 五段 |
| 福岡県 | 松山 修司(18) 四段 |
| 福岡県 | 中村 忠司(66) 五段 |
| 福岡県 | 福山 英明(29) 五段 |
| 佐賀県 | 佐田 信之(19) 四段 |
| 長崎県 | 馬場 弘(49) 四段 |
| 長崎県 | 長崎 護(48) 三段 |
| 熊本県 | 熊木 博之(17) 四段 |
| 熊本県 | 稲田 文次(39) 四段 |
| 熊本県 | 笹淵 明(33) 四段 |
| 大分県 | 小西 逸生(49) 四段 |
| 安部 | 雅美(33) 四段 |
| 宮崎県 | 宮崎 正剛(39) 五段 |
| 宮崎県 | 黒木 健(31) 五段 |
| 鹿儿岛県 | 園田 寛孝(29) 四段 |
| 鹿儿岛県 | 池田 幹夫(29) 三段 |

予選リーグ勝ち

| | |
|---|-----------|
| A | 大迫五段・松山四段 |
| B | 黒木五段・馬場四段 |
| C | 梅野四段・赤木五段 |
| D | 小島四段・安部四段 |
| E | 浜口四段・福山五段 |

一回戦勝者 (以下敬称略)

| |
|-------------|
| 木村、大迫、安部、黒木 |
| 松山、赤木、福山、小島 |

単々決勝上段勝者

| | |
|----|----|
| 木村 | 大迫 |
| 黒木 | 安部 |
| 松山 | 赤木 |
| 福山 | 小島 |

単々決勝敗者二名は三位(上段勝者)

| | |
|----|----|
| 黒木 | 木村 |
| 福山 | 松山 |
| 福山 | 黒木 |

以上

宝の復元を終えたあとは、桐板に取りつけて作業を終了する。同一系統・同類のものには桐板に取りつけておいて、分類・展示も考慮して保存している。

沖ノ島神社遺跡から出土している、古代のまつりに奉獻された神宝は、国宝重要文化財が、十三万余点を数える多量であることは、すでに知られている。現在修理が完了して神宝館で保存されている経巻は、三八四六巻であり、これは、東大寺の「経巻」を継承している。その為、一年一度の出土神宝修理を基礎として行っている。尚これらは、東京国立博物館修復部の一室を作業場として、国宝・重文クラスに指定されている。現在重要文化財に指定されている。

氏子会総代会開催

新役員も承認さる

五月十三日午前十一時より、宗像大社氏子会総代会が、山本三吾氏子会長を始め約八十名の総代と、当社兼津宮司以下九名の職員が出席し、当社清明殿に於て開催された。

五月、まず本殿にて会長以下正式参拝を行った後、会場の清明殿にて会談を開き、開会の辞、国歌斉唱、神宮並皇居遥拝、敬神生活の綱領唱和、氏子会長並びに宮司挨拶と続き、議題に入った。

最初に昭和六十年度の歳入・歳出決算報告が幹事長より、又会計監査の報告が楠田監事よりなされた。次に昭和六十一年度の歳入・歳出の予算案が読み上げられた。その他、沖津宮現地大祭の案内や、昨年度奉納して

いた、拝殿敷、献燈の最終報告が行われ、全ての議題を終了した。

最後に本会議限りで退任される八波副会長の首頭に、万才三唱を行い、閉会の辞をもって総会は滞りなく終了した。

尚新役員は左記の通り

| | |
|-------|-------|
| 会長 | 山本 三吾 |
| 副会長 | 河野 幸人 |
| 田中 富樹 | 藤井 隆彦 |
| 藤井 隆彦 | 倉元 清雄 |
| 倉元 清雄 | 黒石 雅賢 |
| 黒石 雅賢 | 楠田 繁男 |
| 楠田 繁男 | 吉田 寿夫 |
| 吉田 寿夫 | 楠田 茂 |

沖ノ島神宝約二〇〇〇点 数錠、馬の装飾品の馬具類等であった。

修復作業は、まず水洗いはじめ、"さび"や"塩分"をすべて除去したのち、乾燥を終え、永久的加工を行って、表面は合成樹脂の膜で覆って、人工的な光沢を取り去る様に工夫を凝らしている。保存処理や壊れた神

宝の復元を終えたあとは、桐板に取りつけて作業を終了する。同一系統・同類のものには桐板に取りつけておいて、分類・展示も考慮して保存している。

沖ノ島神社遺跡から出土している、古代のまつりに奉獻された神宝は、国宝重要文化財が、十三万余点を数える多量であることは、すでに知られている。現在修理が完了して神宝館で保存されている経巻は、三八四六巻であり、これは、東大寺の「経巻」を継承している。その為、一年一度の出土神宝修理を基礎として行っている。尚これらは、東京国立博物館修復部の一室を作業場として、国宝・重文クラスに指定されている。現在重要文化財に指定されている。

沖ノ島神宝修復を終え 一年ぶりに戻る

一年ぶりに戻る

一年ぶりに戻る

一年ぶりに戻る

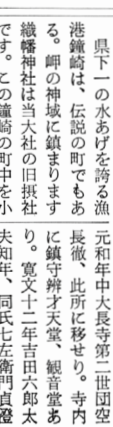
一年ぶりに戻る

一年ぶりに戻る

一年ぶりに戻る

神郡社寺めぐり

泉福寺 (玄海町鐘崎)



泉福寺は、伝説の町でもあり、脚の神域に鎮まっています。泉福寺は当大社の旧摂社です。この鐘崎の町を小川が流れている。この川を千代川と呼び、さらに上流を敷川と呼び、さらにこの千代川はもとりに「泉福寺」が建っている。境内ははずすで、清く美しい。漁業の人々の厚い信仰がうかがえる。

寺院概観を見ると、本尊 阿弥陀如来

泉福寺は、伝説の町でもあり、脚の神域に鎮まっています。泉福寺は当大社の旧摂社です。この鐘崎の町を小川が流れている。この川を千代川と呼び、さらに上流を敷川と呼び、さらにこの千代川はもとりに「泉福寺」が建っている。境内ははずすで、清く美しい。漁業の人々の厚い信仰がうかがえる。

寺院概観を見ると、本尊 阿弥陀如来

泉福寺は、伝説の町でもあり、脚の神域に鎮まっています。泉福寺は当大社の旧摂社です。この鐘崎の町を小川が流れている。この川を千代川と呼び、さらに上流を敷川と呼び、さらにこの千代川はもとりに「泉福寺」が建っている。境内ははずすで、清く美しい。漁業の人々の厚い信仰がうかがえる。

寺院概観を見ると、本尊 阿弥陀如来

泉福寺は、伝説の町でもあり、脚の神域に鎮まっています。泉福寺は当大社の旧摂社です。この鐘崎の町を小川が流れている。この川を千代川と呼び、さらに上流を敷川と呼び、さらにこの千代川はもとりに「泉福寺」が建っている。境内ははずすで、清く美しい。漁業の人々の厚い信仰がうかがえる。

寺院概観を見ると、本尊 阿弥陀如来

夏越祭・大祓神事御案内

夏越祭・大祓神事御案内

夏越祭・大祓神事御案内

暑さも日に厳しさを増してまいりました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ心身の罪・穢を人形に託して焼く除き、清々しい気持ちをもって明日の生活を安らかにするための祈りをこめたお祭りです。

本年も左記により斎行致しますので、皆様お誘い合せの上御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

六月吉日

宗 像 大 社

崇敬者各位

記

一、七月三十一日 午後五時、大祓神事、引続き夏越祭

二、皆様に御送付申し上げます人形の赤白は、男女の区別を表わしたものであります。男は白、女は赤に氏名、年令を書き、息を吹きかけ、初穂料をそえられ七月三十一日までに到着するよう御送付下さい。

一、人形の送付を受けておられない方で御希望の方は当社宛御連絡下さい。

神宝 宗像大社人形について

国宝指定(古代人形)

この古代人形は、約五千年前宗像大社に捧げられたもので、大祓神事の永い歴史と伝統を物語っております。

「地球浪漫」

放送日 七月十九日 午後十一時〜三十分

題名 「海の子」 沖ノ島再発見」

ネット TBS系 福岡はRKB毎日放送

※「地球浪漫」は、地球上のあらゆる場所、あらゆる自然と共に生活している人々に、スポットを当ててドキュメンタリードラマを編集している。

今回は、宗像沖ノ島を中心に「宗像大神」を祀りながら、海に生きる人々(海宝丸・福崎久幸)を取り上げていく。古代の沖ノ島のまつりと神宝を併せて紹介しながら、現代の姿を映像としてダブらせ報告していくとしよう。

泉福寺は、伝説の町でもあり、脚の神域に鎮まっています。泉福寺は当大社の旧摂社です。この鐘崎の町を小川が流れている。この川を千代川と呼び、さらに上流を敷川と呼び、さらにこの千代川はもとりに「泉福寺」が建っている。境内ははずすで、清く美しい。漁業の人々の厚い信仰がうかがえる。

寺院概観を見ると、本尊 阿弥陀如来

美しい花を咲かせて下さい!!

宗像大社菊花会
玄海中学校に菊の苗を贈呈

西日本一の菊花大会、西青少年の情操教育の一助に日本菊花大会を主催する、宗像大社菊花会(会長高原鹿吉、会員千名)が、花を苗三百本、葉刺散佈器二機などを贈呈した。



同会は毎年当大社の境内に、大輪、懸崖、盆栽などの見事な菊を展示し、菊作りの九州一を決定する大会を開催しているが、開催地の地元中学校にある、玄海中学校に、会員有志による菊の苗の贈呈を、昨年より行っている。昨年は六百本の苗を贈呈し、十一月の第十六回西日本菊花大会には、玄海中代表者四十五名が出品、初めて作られたとは思われぬ見事な作品が展示された。本年は、昨年より独自の苗を育成している為半数の三百本を贈呈した。

本年の贈呈者は、宗像菊友会中村正理事、粕屋菊友会青谷員五郎理事、長崎弥太郎理事、遠賀芳栄高島雪茂理事長の四名で、六月三日正午、代表中村理事と事務局長並びに当社巫女が玄海中を訪問、生徒の代表に手渡した。贈呈を受けた同中学校で、二生懸命育て、花を咲かせることで、生徒たちにものを育てる喜びを知ってほしいと語っておられ、夏休み期間は生徒が交代で登校して水やりをするなど、今年の大会へも出品展覧することを目標に、全校生で栽培にあたる。菊花会でも、生徒の出品を奨励し、栽培指導を十冊

短歌への私考 (一)

宗像大社歌会講師
中村 吾郎

作歌の場合、単純化するという意味で「切り取る」ということをよく耳にしますが、私は「凝縮する」と言った方がより適切かなと思います。凝縮を重ねて一点に絞った時点で作品化された歌は、自ずから余情を生み、広がりを持つと思われまふ。説明されない部分が多くなるのではないのでしょうか。

あれも、これも言わねば判らないだろうと言ってしまうのは煩雑になるばかりで要りません。一点に感を集めて読みくだすこととお勧めします。それが作品の

価値を高める事にもなりま作品の方に目を移してみましよう。

夜の庭に空佇ころがる音聞てゆ時折風の向き変はららし目原 節子
日光はまざるものか窓へに寄れば明るしめりぬるまなうら 鷺津 勝代

これ等の作品は、宗像誌に寄せられた歌の中から任意に抜いたもので、概念的な語は一切もないことと気付かれるでしょう。新旧名遣いが歌に依って

福岡県神道青年会

沖津宮参拝並びに清掃奉仕

福岡県内の青年神職と氏子青年会の方約四十名が、五月晴れに恵まれた五月二十三日、沖津宮参拝並びに清掃奉仕をされた。一行は、午前八時、辺津宮に正式参拝した後、大島漁船「宮地丸」(十九トン)を出て、午前九時、神湊港を航した。心配していた海上も、五月

新人紹介 (一)

中野 京恵
(なかのたか恵)



出身校は、折尾女子商業高等学校です。趣味は、音楽鑑賞とスポーツを見るのが好きです。音楽では、歌謡曲を聞くことが多いです。

海を泳ぎたいと願っている。尚本年の贈呈品は左記の通りである。三百年本葉刺散佈器二機、五百本葉刺散佈器、五百本葉刺散佈器、五十冊。宗像大社歌会でも、生徒の出品を奨励し、栽培指導を十冊

「観光立町」を目指し

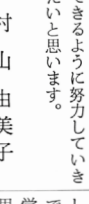
玄海町観光協会
再編成して発足

昨年より再編成が検討された、玄海町観光協会が、去る五月七日、宗像郡玄海町鐘崎の漁村センターで開催された正式に発足した。

玄海町観光協会は、玄海町の地域活性化の一方策として「観光」に着目し、九月より準備委員会を組織し、種々検討を重ねていた。玄海町の観光協会は昭和三十一年に発足したが、行政関係の組織であったため、歴史と自然に恵まれた町であり、この貴重な観光資源を有効に利用して、実践的な活動を目指している。新しい事だと思えないが、自分自身で判断できるような努力していきたいと思ふ。

村山 由美子

(むらやまゆみこ)



出身校は、宗像高等学校です。特技というほどのものはないのですが、スポーツでは球技が好きです。それから、高校では被服科でしたので、料理を作ったり、洋服

新しい協会は、「観光立町」をスローガンに、旅館、商店会のほか、漁協、農協、商工工会、区長会、住民有志など、町内各層二十

社務日誌抄

- 五月一日 月次祭
- 五月三日 春季奉納盆裁展
- 五月四日 日本憲法学研究
- 五月五日 奉月祭
- 五月七日 香川県井上宗像神社宮司植草尚氏外六名参拝
- 五月八日 出光美術館々員十三名来社
- 五月十日 島原市霊丘神社宮司松平定京氏外氏子参拝
- 五月十一日 第九回宗像王位職開催奉告祭
- 五月十三日 宗像大社氏子会総会
- 五月十五日 月次祭
- 五月十六日 三河アポロ会
- 五月十九日 山陰放送長谷川昭博テレビ製作副部長・RKB毎日放送三名神玉館取材の為来社
- 五月二十二日 九州美術館々員、安川洋生氏外一名本殿棟札撮影の為来社
- 五月二十三日 宗像郡遺族会役員総会
- 五月二十三日 福岡県神道青年会真木大樹会長以下三十六名沖津宮参拝
- 五月二十六日 沖津宮現地二十五名来社
- 五月二十七日 沖津宮現地大祭
- 五月二十九日 田川市風治八幡宮歌神補入部三十名参拝
- 五月三十日 福岡県コボタ大橋松雄氏外百名参拝
- 以下管内各名参拝
- 出光興産福岡支店新入社員十一名参拝入社奉告祭進行

野間 千矢

(のまぢ)



出身校は、折尾高等学校です。クラブは、ソフトボールです。中学では、バスケットボール、サッカーなどいろいろなスポーツを見ますが、特に、バレー

部が活動しているのみで、その実状は名目のみで、全

宗像大社歌会 俳句作品集(二〇〇)

田熊 力丸 一郎 梅いのなき朝寝むさぼる暮春かな
鐘崎 岩瀬 辰夫 仰きみる記念碑専し八重桜



福間 広渡一寿軒 舗装路をしゃくする毛虫やひでりかな
藤沢 井上 玄洋 首かしげ浜屋頭の風に揺れ

(続) 浜の寄物

いしいただし



鳥浜貝塚の範囲は東西南北約六〇メートル以上で

年十二月まで、第十次調査を終了となりましたが、なんと二年間も行われた結果が出ています。縄文時代前期を完全に復元される質量でもあるのです。まさに鳥浜は「縄文時代のカプセル」そのものなのです。

排洩物とは糞のことです。この排洩物といえは「千浦美智子」さんの事を思い出します。ここから出土した排洩物の研究に驚いた生を捧げた人でした。長い年月のうちには化石化して、形状を保っているのです。これをコプロライトと呼ばれています。十次及ぶ調査で多数のコプロライトが発見されましたが、と

り、釣川の河川は深く内陸部に入り込んでいたと思われ。玄海町田島の宗像大社境内の周辺部まで、入江が入り湖沼を形成していたと考えられる。旧田道三号線東郷橋あたりの釣川川床は、弥生時代の土器類が多く出土した「釣川遺跡」である。また宗像高校の周辺は「田熊遺跡」と呼ばれた。かつて弥生時代の村落共同体の集落址でもあったと言われているが、旧制中学校建設にともない地形が変形し、現在すでに、もうその姿を知りえない。このことより宗像地方は、現在より高台の地帯の平野部が築つたか、生活を行っていたと考えられる。

「十一月頃はこんな天気が多いんですよ」と運転手さんの話。藍色の空、荒涼とした初冬の景色、冷たい雨。ここは若狭の国、水上勉が好んで描いた世界です。三万湖、水月湖の横を通り、名物になっていく舟小屋が見え隠れします。湖畔のあちこちに梅林もあり、その「福井は梅の産地です」と運転手さん。坂を登り、下ると海が見えてきました。「ここで、その車が停車、塩焚き、そのむかし塩を焼いて運んだというところ。弓状の小さな砂利浜でした。海は白波が立ち荒れていました。ジャラジャラ礫石が摺り合う音がします。(写真は三万湖)

古代史探訪 (18) 宗像の生活址

宗像市久原地域

宗像市は北九州と福岡の中間地に位置しているために、近年順にベッタタウ化が進んできている。そこで宗像市では、久原地区に昭和五十九年から十一年計画として、市民の憩いの場「総合公園」建設に取り組んできている。いま現在、建設も着々と進み、まず手はじめに総合公園の核となる「市民センター」の建築に着手している。この公園は、自然公園・古墳公園も併せて設置していくと発表されている。これは生活のなかで、古代から続いてきた郷土の歴史と文化に

ふれていくことを目的として、建設していくと聞いている。宗像市の久原地域には、古墳が群をなしていることが知られている。このため建設計画と同時に、発掘調査をはじめ、現在継続して進めており、古墳数は調査後に復元して保存し、見学が出来る様になる。色々の出土品が新聞をにぎわしている。見聞された方も多くいると思うが、ここでいくらかふれていってみたい。久原地区は宗像市の奥なる丘陵部の台地上である。

ます。みるみるうちに白く砕いた貝殻まじりの泥土が積みあげられていきます。これらの山を水洗しながらメッシュで種子や極小の遺物を選別していく仕事が続いて待っているのです。今日まで十八万点の膨大な遺物が発掘されました。14C年代測定では、五五〇年前、縄文時代前期の結果が出ています。縄文時代前期を完全に復元される質量でもあるのです。まさに鳥浜は「縄文時代のカプセル」そのものなのです。土器、石器は云々に及ばず、木器や繊維類、動物物の遺骸、そして排洩物までが発掘されています。

「排洩物とは糞のことです。この排洩物といえは「千浦美智子」さんの事を思い出します。ここから出土した排洩物の研究に驚いた生を捧げた人でした。長い年月のうちには化石化して、形状を保っているのです。これをコプロライトと呼ばれています。十次及ぶ調査で多数のコプロライトが発見されましたが、と

り、釣川の河川は深く内陸部に入り込んでいたと思われ。玄海町田島の宗像大社境内の周辺部まで、入江が入り湖沼を形成していたと考えられる。旧田道三号線東郷橋あたりの釣川川床は、弥生時代の土器類が多く出土した「釣川遺跡」である。また宗像高校の周辺は「田熊遺跡」と呼ばれた。かつて弥生時代の村落共同体の集落址でもあったと言われているが、旧制中学校建設にともない地形が変形し、現在すでに、もうその姿を知りえない。このことより宗像地方は、現在より高台の地帯の平野部が築つたか、生活を行っていたと考えられる。



調査中の久原遺跡

「排洩物とは糞のことです。この排洩物といえは「千浦美智子」さんの事を思い出します。ここから出土した排洩物の研究に驚いた生を捧げた人でした。長い年月のうちには化石化して、形状を保っているのです。これをコプロライトと呼ばれています。十次及ぶ調査で多数のコプロライトが発見されましたが、と

り、釣川の河川は深く内陸部に入り込んでいたと思われ。玄海町田島の宗像大社境内の周辺部まで、入江が入り湖沼を形成していたと考えられる。旧田道三号線東郷橋あたりの釣川川床は、弥生時代の土器類が多く出土した「釣川遺跡」である。また宗像高校の周辺は「田熊遺跡」と呼ばれた。かつて弥生時代の村落共同体の集落址でもあったと言われているが、旧制中学校建設にともない地形が変形し、現在すでに、もうその姿を知りえない。このことより宗像地方は、現在より高台の地帯の平野部が築つたか、生活を行っていたと考えられる。

「排洩物とは糞のことです。この排洩物といえは「千浦美智子」さんの事を思い出します。ここから出土した排洩物の研究に驚いた生を捧げた人でした。長い年月のうちには化石化して、形状を保っているのです。これをコプロライトと呼ばれています。十次及ぶ調査で多数のコプロライトが発見されましたが、と



宗像市は北九州と福岡の中間地に位置しているために、近年順にベッタタウ化が進んできている。そこで宗像市では、久原地区に昭和五十九年から十一年計画として、市民の憩いの場「総合公園」建設に取り組んできている。いま現在、建設も着々と進み、まず手はじめに総合公園の核となる「市民センター」の建築に着手している。この公園は、自然公園・古墳公園も併せて設置していくと発表されている。これは生活のなかで、古代から続いてきた郷土の歴史と文化に

宗像むかし話 (13) 大島住人 藤田 貞蔵 漂流奇談

筑前大島に藤田貞蔵といふ者がいた。文政四年(一八二二)三月、八月十四日、一四三年の様に島の必需品を買入るために、博多に渡海した。大島から博多迄は海上およそ六十軒ある。往路は無事に渡海し、商用をすませたの帰途、俄かに海上が荒れ出した。秋の空は曇り易い。おやと思う間に暴風となつた。怒涛が逆巻き、折しも今日と違つて当時の漁船には何の設備もない。四方暗黒の海上には何も見えない。船頭水夫ら三名の者は必死になつて船を操つていたが、今はどうしようも無くなつた。山の様な横波が押し寄せ、あっという間も無く船が顛覆して、一同の者が暗黒の海上に投げ出された。浮きつ沈みつしているうちに、貞蔵は一枚の船板にたどり着いた。貞蔵は遂に氣を失つてしまつた。長州萩の三島村の某が、朝早く沙井を汲みに海辺に下つた。すると、何か白いものが浜辺通か見える。何であらうかと近寄つて見ると、破れた船板にたどり着いてた人間が打ち上つて来た。貞蔵は、生きていた。よく見ると、「おうい」と耳元で呼ぶ。かすかに目をあけた。生きていた。某はあわてて助けあげようとした。ところが、漂流していた間、

「排洩物とは糞のことです。この排洩物といえは「千浦美智子」さんの事を思い出します。ここから出土した排洩物の研究に驚いた生を捧げた人でした。長い年月のうちには化石化して、形状を保っているのです。これをコプロライトと呼ばれています。十次及ぶ調査で多数のコプロライトが発見されましたが、と